

今日のトピック 最近の指標から見る中国経済(2014年9月) 生産が鈍化、輸出は堅調、景気刺激策に期待

ポイント1 生産の伸びが大きく鈍化

消費も伸び悩みが続く

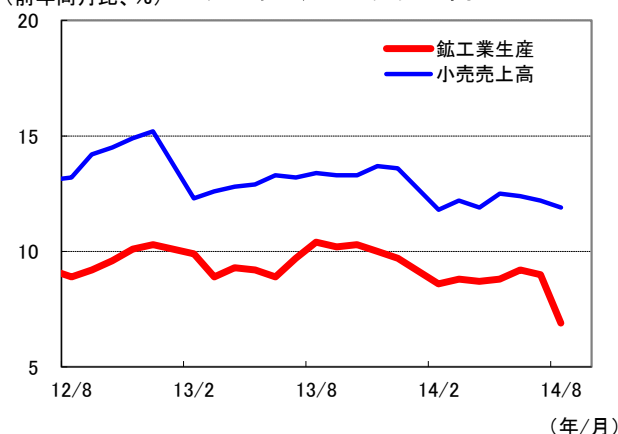
- 8月の鉱工業生産は前年同月比+6.9%と、7月の同+9.0%から大きく鈍化しました。これは5年8カ月ぶりの低水準です。主な製品別では、自動車は7月の同+10.5%から、同+3.1%へと大きく鈍化しました。また、経済活動と関係が深い発電量も同+3.3%から同▲2.2%へと、5年3カ月ぶりの水準まで低下し、前年割れとなりました。
- 8月の製造業景況感指数、特にそのうち新規受注の改善が、一旦頭打ちとなっており、景気刺激策への期待が高まっています。
- 8月は小売売上高も、同+11.9%へと鈍化しました。自動車販売額が同+5.3%と、約2年ぶりの低水準となっています。販売が毎年好調となる9月、10月に持ち直しがあるかが注目されます。

ポイント2 貿易黒字額は過去最高

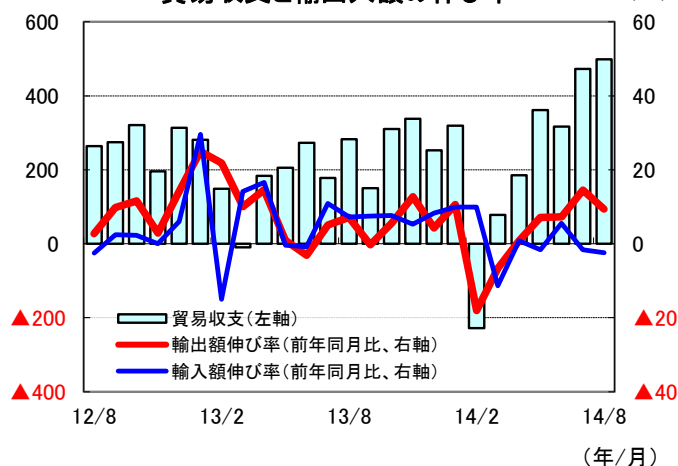
米欧やASEAN向け輸出がけん引

- 8月の貿易黒字は498億ドルと、過去最高を更新しました。輸出額は前年同月比+9.4%、輸入額が同▲2.4%となりました。輸出額は米、欧、ASEAN向けが二桁増となってけん引しました。
- 一方、内需の鈍化もあり、原油や鉄鉱石などの輸入が伸び悩んだ結果、黒字額が膨らみました。

(前年同月比、%) 鉱工業生産と小売売上高



(億ドル) 貿易収支と輸出入額の伸び率 (%)



(注)期間は上下グラフともに2012年8月～2014年8月。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット マネジメント作成

今後の展開 景気刺激策の拡充に期待、金融緩和策を強化する可能性も

- 上記以外にも、固定資産投資や社会融資総量など、9月発表の内需関連指標は、予想を下回る低調なものでした。ただし、外需が堅調なことなどから、なお通年+7%前半～半ばの経済成長が達成可能と見られます。
- 市場では、内需の下振れを受け、景気刺激策の拡充期待が増しました。今後はインフラ投資の拡充、金融緩和策の強化などが想定されます。
- 10月21日の7-9月期GDPの発表前後には、政府が政策を発表しやすく、動向に注目です。
- 中国株は底堅く推移しています。最近の上昇を踏まえても、歴史的に見て、また、先進国と比較して、割安なことには変わりはないと見られます。
- 今後も、改革の進展や企業業績の回復期待、相対的に高い成長力への評価などから、株価は緩やかな上昇基調を続けるものと思われます。

ここも チェック!

2014年08月21日【デイリー No.1,938】最近の指標から見る中国経済(2014年8月)
2014年08月06日【デイリー No.1,929】中国株式市場の動向について

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。